

★基礎講座第三講第二部のご案内

基礎講座第三講第二部のご案内です。皆様のご参加をお待ちしております。

日時：2022年5月15日（日）14:00～17:00

形式：ZOOM 会議形式

申し込み先：<https://forms.gle/m9L7iiGCmGUkwLPy5>

お問い合わせ先：nrj27438@nifty.com

講座の概要

テーマ：現代の戦争論と戦争廃絶の可能性

もともと現代社会の文化のうち、科学技術こそが最大のものではないかと考え、その批判を人類学的知性によってなしとげることが当初の予定でした。しかし、ロシアによるウクライナ侵攻が始まり、戦争の時代となりましたので、急遽「戦争の文化」の克服という課題に変更し、第三講を終えました。科学技術自体は軍事を切り離しえないので、軍事技術批判という課題も考慮していましたが、それはやれていません。あと、戦争論も、ヴィリリオの純粹戦争論を紹介しましたが、これは冷戦時代の認識で、2018年まで活動していたヴィリリオには、冷戦後の戦争論も書いていますが、その紹介はできませんでした。陣地戦論も、ラッツアラートの内戦論の批判という形で問題提起しましたが、戦争をなくすこと、つまり軍産複合体をなくすための陣地戦論という次元にまでは進みえていません。ということで第三講の続編を第二部として構想しました。また、これで終わるわけではなく、第三部も予定します。

第二部では、「現代の戦争論と戦争廃絶の可能性」というテーマとし、現代の戦争の具体的分析にもとづいた戦争論の定式化と、人類学的視点からの戦争論の考察を試みた先行研究を紹介しつつ、戦争廃絶の可能性について考察します。

問題意識の第一は、現在の戦争は帝国主義戦争なのかどうか、ということの検証です。この規定はレーニンの『帝国主義論』の妥当性を無意識のうちに認めているわけですが、しかし、植民地獲得を戦争の目的とした戦争は、二つの世界大戦までのものでした。以降冷戦期の戦争は、ヴィリリオの分析しているように、核の抑止力を背景にした軍産複合体の新技术開発競争で、ベトナム戦争にしても、アメリカは植民地支配を目的とはしていません。

現在の戦争については、ジョン・J・ミアシャイマー『大国政治の悲劇』（五月書房新社、2019年）の地域覇権国の覇権争いという見方が妥当すると考えています。現在の戦争も、ロシアという地域覇権国と、最大の地域覇権国アメリカとの間の覇権争いという見方に立てば、いろいろな具体的事実関係の整理ができるのではないのでしょうか。

第二は、『大国政治の悲劇』はさまざまな戦争の歴史的分析から現代の戦争についての理論を作り上げたのですが、それが図らずもアメリカ軍産複合体の行動原理の解明になっていると評価できます。第三部でとりあげる軍産複合体の陣形を明らかにしていく際の前提的理解となります。

第三は、軍事技術によって牽引されてきた科学技術に対する根底的な批判の内容です。ヴィリリオは一貫してこの課題を追求してきたのですが、彼の作業を追体験した上で発展的な解明をしたい。

第四は、戦争廃絶の可能性について、様々な論者の主張を検討しながら、第三部で取り上げる軍産複合体を解体する陣地戦論の構想に向けての序論とします。